

新聞紙



チラシ で工作を

どこの家庭にもある新聞紙やチラシ。捨てる前にちょっと遊んでみませんか？ 退屈な雨の日の部屋遊びに。夏休みに大作に挑んでもいいかも。

田中朱実



2006年7月号

目次

読売ライフ

- 1 ● 地域の話Ⅰ
- 5 ● お気楽シェイプアップ／二の腕
- 6 ● 特集／
 目指せ!美腹 講座
- 10 ● ガーデニング／ハンギングバスケット
- 12 ● お知らせ／「ヨリモ」スタート!
- 15 ● みんな de 川柳
- 17 ● ことばのよもやまばなし 赤筆診療たん
- 20 ● プレゼント
- 21 ● 連載 No Kidsの未来図
- 22 ● 料理／
 トマト料理3種

- 25 ● パズル 頭の道場
- 26 ● 読者の?探ります／
 セミはいつ土の中へ
- 29 ● 健康／痛風
- 30 ● 今月の運氣
- 32 ● 読者から...／
 今月のテーマ「ハマった」BOOK
- 35 ● 家計塾
- 37 ● 通販 まはるショッピング／
 シルクのインナー、夏の靴
- 38 ● 地域の話Ⅱ
- 40 ● YCだより 虹 情報

表紙の絵

「ゲド戦記」

「管理社会の窒息状況の中で、自立への道を閉ざされ、過保護の中で神経症になっている現代の若者たちに、こころの解放を与えたい」。これは宮崎駿監督が、「風の谷のナウシカ」の製作時に書いた企画意図の一節です。そして映画「ゲド戦記」。冒頭、エンラッドの王子アレンが父を刺します。何不自由のない生活を送る少年は、なぜ父に刃を向けたのか。宮崎吾朗監督が、この古くて新しいテーマをどう描くのか。どうぞ、ご期待ください。(スタジオジブリ)



クラフトコミュニティひねもす

営業時間 火～土曜 14:00～18:00
 無料 (有料教室も随時開催、要問い合わせ)
 京都市中京区上瓦町58-29
 ☎ 075-801-0133

ひねもすイベント情報

■「ロボットを作ろう! (仮)」

日程: 7月8日(土)、7月22日(土)
 時間: 11:00～17:00 (3回・各1時間)
 料金: 無料
 場所: クラフトコミュニティひねもす
<http://cchinemos.seesaa.net/>

■「パイプロイド博'06 (仮)」

日程: 8月1～13日
 時間: 11:00～20:00
 料金: 無料
 場所: human+art太陽事務
 京都市中京区三条通高倉北東角
 Ducemixビルディング2F
 ☎075-211-3712
<http://taiyo-jimu.jp/>



マジックハンドは作って動かせるので人気。竹とんぼなど見本や作り方の図も置いてある

「ひねもす」は京都市内のゲームソフト会社「コト」が2003年に開発。「グッドトイ」に認定されるなど、ファンを増やしている。「ゲイ

JR二条駅から東へ。昔ながらの豆腐屋さんや乾物屋さん、お総菜屋さんなどが並ぶ京都三条会商店街に、一風変わったお店が。「クラフトコミュニティ・ひねもす」の名に「何のお

くるくる巻いて組み立てて

店？」とのぞいていると、小学生を連れてお母さんたちがやってきた。「どうぞ、一緒に遊んで行ってください」と言う店長さんの言葉にドアを開けると……。「こんな出来た」「竹とんぼ!」「ほら、このマジックハンド動くねん」。元気な子どもたちが手にしているのは、色とりどりの筒!? 要らなくなったチラシをくるくる巻いて棒状にしたものにパンチで穴を開けて組み立て、動物や乗り物、ロボットなどを作るのが「ひねもす工作」。ここは、誰でも自由にひねもす工作が出来るよう開放されたスペースだ。



ムもいいけど、手先を使うモノ作りを広めたい、との想いからひねもすが生まれたんです」と言うのは開発部の角田崇さん。「素材から自分で作る方が楽しいし、要らないものが要るものに変化する



専用ローラーやパンチ、カッターなどが入ったひねもすキットは5229円



店長の山下敏史さんに作り方を教えてもらう

るのが面白い。もともとの素材と、出来上がった作品とのギャップが大きいほど感動が大きいので、チラシでやることをおすすめしています。薄い、分厚い、ツルツルのもの、わら半紙風とチラシにも色んな紙があるけれど「どんな紙を使っても、同じパイプが出来るようになっていま



ひねもすから生まれた新製品パイプロイド。色づけした紙がパイプになった状態でセットされて500円。「作ってみるとかかなり工作気分が味わえる」とサラリーマンやOLを中心に売れ行き好調。ウェブショップ <http://piperoid.jp> 中京区のショップ「human+art太陽事務」(☎・075-211-3712) で販売されている



「孫がここで工作して以来、チラシちょうだいと言うようになった。捨てずのためといて、取りに来るのを楽しみにしてるんです」と近所に住む女性。「ひねもす」という名には「日がな一日工作を」という意味が込められている。

お話しに合わせて折り紙を

「消防士さんが駆けつけて、はしご車が伸びました」。背丈くらいまで伸びたはしごの前に歓声を上げる子どもたち。京都造形芸術大学芸術文化情報センターピッコリーとことも芸術大学（左京区）で開かれた「折り紙で遊ぼう！」イベントでもっとも盛り上がったシーンだ。

折り紙を教えていたのは「そのべおりがみ文化伝承会」の皆さん。から、メンバーは年配の



ピッコリーでの折り紙イベント。学生たちが大活躍だ



南丹市中央図書館で開かれた「お話し折り紙」

はしごを作ってみよう！



びゅーんと伸ばしてはしごの完成!!



人たちが思ったら、かれんなお姉さんやヒゲ面のお兄さん。「南丹市立中央図書館に集まる若者を主体にした会なんです」と話すのは、会を主催する図書館の大西敏之さん。「図書館は静かに本を読むところというイメージでしょうが、折り紙関係の本は多いし、折り図を読む力も必要となります。新聞紙折り紙はお話を語りながら折っていくので、聞く力も養われます」という訳で、図書館でもたびたび「折り紙教室」を開いている。

「折り紙教室を始めてしばらくして、図書館に来る学生たちを講師にスカウトした。京都伝統工芸専門学校、京都国際建築技術専門学校が近くにあり、周辺に下宿している学生も多く、「暇を持て余している子もいるのでは」と思い誘ってみると、「とても熱心に参加してくれて、子どもたちも大喜びですよ」と大西さんは明かす。この春卒業して帰郷していたのにピッコリーでのイベントのためにわざわざやってきたメンバーもいるそうだ。埼玉県から駆けつけた卒業生高野邦彦さんは「折り紙教室に参加したお陰で町の人たちとも仲良くなれたし、町に愛着ができた。誘ってもらえたら、また京都で折り紙教室に参加したい」と言う。「楽しい新聞紙折り紙の作り方は、聞いてくださいいね」と大西さんは話している。